

日本学術会議・経済学委員会・国際開発研究分科会
第24期・第1回議事要旨

開催日時：2018年4月20日（火）、16:00-17:30

場所：日本学術会議事務局 5-A(1) 会議室（5階）

出席者(敬称略)：黒崎、櫻井、三重野、高阪、浜口（5名）

欠席者(敬称略)：溝端、園部（以上、海外出張）、宮越、浦田、高橋（5名）

（1）分科会委員長等の選出の選出

24期の分科会委員長に黒崎、副委員長に櫻井、幹事に三重野を選出した。

（2）今後の活動予定について、以下のように合意された。

- ・今期は、国際開発に関わる政策課題ないし政策に関わる学術的課題についての論点整理に努め、3年目に「報告」をとりまとめることを目途とする。SDGs（持続可能な開発目標）に関係する議論を深め、学术界からの発信のテーマを探る。発信に際しては国内外の国際開発組織との連携も考慮する。
- ・分科会ではSDGsの論点に関する委員からの報告をもとに議論を進める。適宜、専門分野の外部講師の招聘も検討する。
- ・1年目は3回程度ほど分科会を開催する。次回以降の開催は、9月、1月を目途とする。

（3）その他

- ・JICAのODA評価方式についての報告および討論（報告：黒崎委員長、報告タイトル：「日本のODAの定量的評価：JICA事業評価年次報告書2017を題材に」）

別添配付資料に基づき、黒崎委員長から、自身が外部有識者委員として関わったJICAのODAの定量的評価に関する課題について報告され、討論が行われた。JICAの採用する評価方式が「妥当性」、「有効性」、「効率性」、「持続性」の項目についての辞書式評価と加点評価を組み合わせた独特なものであること、仮に、加点合計だけでなく項目間のバランスを重視する評価方式をとれば結果は大きく変わってくること、評価方式に基づいたJICAによる案件評価分析の報告書では、新しい事業ほど評価が改善していること、国内入札案件ではODA規模が小さいほど評価が高いのに対し、国際入札の案件では逆の傾向合あるなど、その決定要因が論じられていること、などが報告された。報告に対し、評価方式への質問・疑問や、評価の決定要因をあらゆる角度から探る必要があることなど、のコメントが出された。

以上